

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果及び改善策

国 語

(1) 本校の実態

- 『知識及び技能』の領域の「我が国の言語文化に関する事項」は全国平均77,9%に対し、100%であった。
- 『思考・判断・表現』の領域の「読むこと」は 全国平均66,6%に対し、75,0%であった。
- ▲『思考・判断・表現』の領域の「話すこと・聞くこと」、「書くこと」が全国平均に対して40%ほど下回っている。
- ▲書かれている文章を端的にまとめる力が弱い。

(2) 実態を踏まえた手だて

①「話すこと・聞くこと」「書く」能力の向上を図る

- 「話すこと・聞くこと」の領域が全校的な課題となっているので、対話的な授業を引き続き行っていく。
 - ・学習活動の中に話し合いの場面を意図的に多く設定していく。
 - ・聞く力の定着を意図して、集中して聞き、大事なことを落とさずに書く訓練を取り入れる。
 - ・短い文章を読み、質問をしながら聞く力を付ける。
- 字数制限の中で、論点を要約した作文を書く訓練を行う。
- 児童同士で作文を読んで推敲し合い、気付いたことを交流する。

②「読む」能力の向上を図る。

- 単元の最初に必ず学習計画を立て、学習の見通しをもって授業に臨む。
 - ・主語、述語を意識させ、内容を正確に読み取らせる。
 - ・文のつながり（接続詞など）を意識させ、文の前後の記述に着目させる。
- 読み取りの問題を解く機会を増やすことで、読解力（人物の心情や情景等）を付けていく。

③「言語事項」の能力の向上を図る。

- 漢字の書き取りを確実にし、語彙を増やすための活動を多く取り入れる。
 - ・朝学習において引き続き、個に応じた課題の漢字練習を行う。
 - ・漢字のもつ意味を意識させ、音訓や送り仮名の指導の強化を行う。
 - ・漢字ドリルやテストなどで書けなかった漢字を必ずケアする。
 - ・意味の分からない字や言葉を辞書で調べる習慣を身に付けさせる。

算 数

(1) 本校の実態

- 『知識・技能』の領域は、ほぼ平均並みであったが、「数と計算」と「変化と関係」の区分では、全国平均を大きく上回っていた。
 - ▲『思考・判断・表現』の領域では、全国平均56,7%に対して42,9%と平均を14%近く下回った。
- また、領域別では「図形」の区分が全国に比して、40,0%弱平均を下回っている。

(2) 実態を踏まえた手だて

①「主体的に学習に取り組む態度」の能力向上を図る

- 小テストや補助プリントを用いて日常の評価をしっかりと行い、個々の課題を分析する。
- 個々に応じた課題を取り上げ、焦点化した学習をさせる。
- 制限時間を意識させると共に、達成感を味わえる学習を心がける。

②「知識及び技能」の能力向上を図る。

- 技能の定着をめざし、計算練習の反復を行うと共に、ケアレスミスを防ぐための見直しを促す。
- 計算の速さも意識させながら計算力を高める。

③「思考・判断・表現」の能力向上を図る。

- 図形の特徴や性質を意識させながら作図をさせる。
- 授業の中で、児童が自身の考えを説明する場面を設定し、他者との考え方の違いやより良い解き方を考えさせる。
- 課題解決に向け、多様な考え方を取り上げ、分かりやすく能率的な解決法を意識させる。
- 文章題への慣れを目標に問題を多く取り入れ、キーとなる記述や数値を囲んだり、アンダーラインを引くなどをさせることで、思考を整理させる。

理 科

(1) 本校の実態

- 『知識・技能』の領域では、全国平均62,5%に対し、83,3%と大きく上回っていた。
特に、「生命」を柱とする領域では、全国平均75,0%に対し、90,0%であった。
- ▲『思考・判断・表現』の領域で、全国平均63,7%に対して50,0%と平均を14%近く下回った。
特に、「地球」を柱とする領域では、全国に比して14%弱平均を下回っている。

(2) 実態を踏まえた手だて

①「主体的に学習に取り組む態度」の能力向上を図る

- 小テストや補助プリントを用いて日常の評価をしっかりと行い、個々の課題を分析する。
- 個々に応じた課題を取り上げ、焦点化した学習をさせる。

②「知識及び技能」の能力向上を図る。

- 予想（考察）⇒実験・観察⇒まとめのサイクルを大切にし、その過程で、自分なりの考えをもてるよう意識させる。
- 個々に応じた課題を取り上げ、焦点化した学習を反復させる。

③「思考・判断・表現」の能力向上を図る。

- 実験や観察によって得た結果と日常生活とを結びつける事を意識した授業の構築に努める。
- 授業の中で得たことを、自身日常と結び付けながら考えを説明する場面を設定し、他者との考え方の違いや多様な考え方を意識させる。
- 課題解決に向け、予想（考察）⇒実験・観察⇒まとめのサイクルを意識させる。

児童質問紙から

(1) 本校の実態

- 食事や睡眠時間等については、ほぼ生活習慣が身に付いている。
- いじめに対する意識も高く、思いやりをもって他者と関わる事ができている。
- 友達と協力したり、学校での学習や活動を楽しんでいる。
- 自然の中で遊ぶことや地域と関りながら生活することができている。
- ICT機器の使用に慣れ、タブレットやPCを使って学習をまとめることができる。
- ▲自己肯定感が低い傾向にある。
- ▲自発的に学習しようとする意識が薄い傾向が見られる。
- ▲読書量が低下してきている。
- ▲小規模校故に、内弁慶な面が見られる。

(2) 実態を踏まえた手だて

- 人数が少ない故に、多様な経験を積むチャンスが豊富な環境にあるので、多様な経験機会を与えることで、経験や自信を深めさせ、自己肯定感を高めていく。
- 自分の課題を自覚させることで、自分に必要な学習を促すと共に、自己調整力（自律・自立）を養う。
- 朝学習の時間を用いた朝読書や児童会活動の中で読書を奨励していく。
- 他校との間接的な交流（zoomやclassroom）や近隣校との交流機会を多くすることで、誰とでも交流することができる土壌を醸成していく。